

【規格名（和名）】

HIS, RIS, PACS, モダリティ間予約, 会計, 照射録情報連携 指針 (JJ1017 指針)

【規格名（英名）】

Interoperability Guideline for Scheduling, Accounting, and Radiation Logging between HIS, RIS, PACS, and Modality (JJ1017 Guideline)

【規格の目的】

JJ1017 指針は、放射線領域における、「予約情報」および「検査実施情報」について、標準規格（HL7・DICOM）を利用し、国内法に則り適切に連携することを視野に入れ策定されたコード及び規格の利用方法に関する指針で、HIS, RIS, PACS, モダリティ間における、予約, 会計*, 照射録情報を「共通のコード値」を用いて、円滑に連携可能とすることを目的としている。

*この場合の会計は実施実績の返信を指す。

具体的には、DICOM 規格における MWM (Modality Worklist Management) 及び MPPS (Modality Performed Procedure Step) に基づき、検査予約情報をシステムからモダリティへ連携登録可能な環境を実現したり、検査実施情報をモダリティから取得の上、オーダー元の実績送信するための手法を提案するなど、国内の医療機関における実際の運用に即した HIS・RIS・PACS・モダリティ間の連携手法及び、その手技コードを規定している。コードの組み合わせとなるコードセットには、構造化による拡張性（複合コード化）を確保し、診療報酬体系への展開を充分視野に入れ、統計やエビデンス解析を容易としながらも、日本国内で多用される、撮影・検査・照射指示について、詳細かつ正確な伝達を可能としている。

また、DICOM を扱わない領域 (HIS/RIS 間における連携等) については、HL7 に基づいた実装（具体的には、JAHIS 放射線データ交換規約等）手法を提案してお

り、非 DICOM 領域の標準規格とも十分な整合が取れている。

【規格の適応領域】

放射線業務で情報連携が想定される、放射線領域を中心とした関連領域内 (HIS・RIS・PACS・モダリティ間) で、手技コードベースの指示情報連携が成立する範囲。(レセプト電算コード等の医事会計領域対応は含まない。)

【指針の標準化により期待される効果】

1. HIS・RIS・PACS・モダリティ間の何れにおいても、共通の連携値を用い、変換ミスや疑義照会を減らし、医療安全に資する。
2. モダリティで発生する、諸情報（照射条件等の照射録情報を含む）から、診療報酬算定に必要な検査実績情報まで、幅広く正確に表現可能で、本指針の採用により、情報の可用性・信頼性が向上すると共に、放射線領域における情報の網羅的収集に資する。
3. 本指針の普及により、インタフェース仕様の標準化が促進され、システムや医療機関を越えた、コードセットの展開が期待される。
4. 放射線情報システムにおけるマスタ構築の効率化や検査概念の標準化に資する。

【関連他標準との関係】

本指針は、HL7 や DICOM など標準規格への整合性も完全に確保しており、JAHIS 放射線データ交換規約での採用を想定している。また、IHE-J の SWF (Scheduled Workflow) 統合プロファイルでも採用が推奨されている。この様に、JJ1017 指針は、各規格との整合を実現した、放射線領域における国内唯一のコード体系である。

【規格の入手方法】

本指針は、(公社) 日本放射線技術学会の医療情報分科会 Web サイト内から誰でも無償にて入手可能である。

<http://www.jsrt.or.jp/97mi/>

【メンテナンス状況】

本指針のメンテナンスについては、公益社団法人日本放射線技術学会の学術交流委員会医療情報関連小委員会が窓口となり、関連学会・業界団体と連携しながら実施される。特に本指針の構造に関するメンテナンスは、社団法人日本画像医療システム工業会（JIRA）及び、一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）との枠組みにより確保されている。

また、コード値の部分については、日本放射線技術学会により、JAHIS・JIRA・日本医療情報学会・日本医学放射線学会・日本核医学会・日本核医学技術学会との連携を確保し、必要に応じたタイミングでのメンテナンスを実施する。

【現在の改版状況】

2001年に初版がリリースされ、その後2003年には改訂してVer.2.0が発表された。引き続き2005年には、指針の利便性、網羅性を更に向上させ、医療機関への実装を促進されることを強く願ってデザインされたJJ1017指針Ver.3.0への改定が行われ、放射線領域における標準的マスターコードとしての位置付けを確実にした。

2009年には、放射線治療領域においても十分な運用を可能とするべく、コードの追加作業が進められ、Ver.3.1となる小改定が行なわれた。さらに2010年には、核医学領域におけるコード拡充を願う声により、日本核医学会を中心とした核医学領域への拡張提案が行われ、指針への統合が決議されたことによりVer.3.2が誕生した。今回申請する指針は、Ver.3.2に平成24年度の診療報酬改定対応（放射線治療領域の複合見直しを含む）と、超音波領域における可用性確保に向けた、見直し結果を反映したVer.3.3となる。

【その他】（現状及び将来への展望）

本指針により、医療機関におけるマスターコードの標準化が進み始めたが、一方では、未だローカルなコードマスタを採用しているシステムも多く、今後必要な期間（更新スパン等）を経て、JJ1017指針への転換を期待したい。

昨今では、地域医療連携による、施設間を越えた診療情報授受の機会が大幅に増えた。しかし、施設独自の検査呼称や手技が、円滑な画像連携の妨げとなっており、本指針がカバーする領域においても、標準コード値や表現への統一が急がれる。

【参考文献】

1. IHE 渉外委員会編、「IHE 入門」篠原出版新社 80-88, 170-206, 2005.
2. IHE Technical Framework Revision5.5, HIMSS/RSNA, 4/7/2003.
3. JAHIS 放射線データ交換規約
4. 経済産業省平成16年度・17年度・18年度 先導的分野戦略的情報化推進事業（医療情報システムにおける相互運用性の実証事業）「IHE-Jを用いた相互運用性に関する放射線部門を題材としたショールーム型実証事業」 事業成果報告書 学校法人 埼玉医科大学 2005年・2006年・2007年
5. HIS・RIS・PACS-モダリティ間 予約、会計、照射録情報連携指針（JJ1017指針）バージョン1.0～3.2 日本画像医療システム工業会（JIRA）・保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS） 2008年